

I. シナイでの律法の制定と幕屋の建造の後、神は彼の民にレビ記のすべての章を与え、彼らを訓練して彼を礼拝させ、彼にあずからせ、聖なる、清い、喜ぶ生活をさせました。

II. レビ記第8章の記録は、祭司であるアロンと彼の子たちの任職に関してです：

A) これは、第1章から第7章のささげ物が、祭司の任職、あるいは任命のためであることを示しています。

B) ヘブル語で「任職」は、「手を満たす」を意味します。大祭司の聖なる地位を受けるというアロンの任職を通して、彼の空の手は満たされました。

出28:41…彼らに油を塗り、彼らを祭司職に任命し、彼らを聖別して、彼らが私に祭司として仕えるようにしなければならぬ。

レビ8:26…パン種のない輪型の平らなパン一個と、…輪型の平らなパン一個…を取り、それらを脂肪の分け前の上と右のものの上に置いた。

27…彼は…それらを揺り動かすささげ物として、…揺り動かした。

28…祭壇の上の全焼のささげ物の上で焼いて煙を立ち上らせた。それらは満足させるかおりとしての任職のささげ物、エホバへの火によるささげ物である。

C) 祭司職への私たちの任職は、五つのささげ物すべて(全焼のささげ物、穀物のささげ物、罪のためのささげ物、違犯のためのささげ物、平安のささげ物)としてのすべてを含むキリストをもって、私たちの享受のために「手を満たす」ことがなければなりません。

D) キリストが私たちにとって何であるかのすべて、また私たちのために何を行なったかはすべて、ささげ物によって予表されており、私たちが祭司に構成します。

E) 私たちがキリストをささげ物として享受することを通して、キリストが私たちの中に構成されることは、神聖な任命です。任職は私たちの側です(私たちは自分自身を神にささげます)。任命は神の側です(神は私たちに任命します)。』

F) 集会の天幕の入り口でのアロンと彼の子たちの任職が表徴するのは、祭司職への私たちの任職が、神の御前だけでなく、また召会のためでもあるということです。

G) モーセがアロンと彼の子たちを水で洗ったことが表徴するのは、私たちが祭司職への任職のために、その霊によって洗われる必要があるということです。

レビ8:4…集団は集会の天幕の入り口に集められた。

6 モーセは、アロンとその子たちを近くに連れて来て、彼らを水で洗った。

Iコリント6:11 あなたがたのうちのある者は、このようでした。しかし、あなたがたは主イエス・キリストの御名の中で、また私たちの神の霊の中で、洗われ、聖別され、義とされています。

H) モーセが幕屋、祭壇、洗盤、そしてそのすべての調度品に油を塗って、それらを聖別したことが表徴するのは、キリストと召会(幕屋)、十字架(祭壇)、その霊の洗い(洗盤)が、新約の祭司職と関係があり、祭司を聖別するためであるということです：

① 神が私たちが祭司として定めたのは聖別の事柄、聖とされる事柄、すなわち、神へと分離され、聖なる方である神で浸透される事柄です。

② 油塗りは、キリストの人性、人の生活、死、復活、昇天と複合された三一の神を祭司に、また召会生活にもたらします。これは、祭司の体系を油塗ることが、神と私たちを一にすることを強く示しています。なぜなら油塗りは、何であれ神であること、神が行なっていること、神が行なおうとしていることが、私たちのものであることを表徴するからです。

Iヨハネ2:20 あなたがたは聖なる方から油塗りを受けているので、あなたがたすべては知っています。

③ 祭司の任職において、罪のためのささげ物と全焼のささげ物が直ちに油塗りに続きました。これらのささげ物は、私たちがだれであり、何であるかを、私たちに思い起こさせ、また私たちがどうあるべきであり、しかしそうではないことを、私たちに思い起こさせます。』

I) モーセがアロンの子たちに祭司の衣を着せたことが表徴するのは、新約の祭司としての信者たちが、キリストの人性の美德とミングリングされた彼の神聖な属性をもって飾られるということです。私たちの外側の表現は、人性の美德において表現されたキリストの神聖な属性であるべきです：

① 予表において、衣は表現を表徴します。祭司の衣は、奉仕する祭司が表現するキリストを表徴します。祭司はまた彼らの聖なる衣によって聖別され、神に分離されました。

出28:2 そして、あなたの兄弟アロンのために、聖なる衣を作って、栄光のため、また麗しさのためとしなければならぬ。

② 祭司の衣は、おもに栄光のため、また麗しさのためであり、キリストの神聖な栄光と人性の麗しさの表現を表徴します。栄光はキリストの神性(彼の神聖な属性)と関係があり、麗しさはキリストの人性(彼の人性の美德)と関係があります。

③ キリストの神性は、祭司の衣の金によって予表され、栄光のためです。彼の人性は、青色、紫色、緋色の撚り糸と細糸の亜麻布によって予表され、麗しさのためです。神聖な栄光と人性の麗しさを持つキリストを表現する生活は、私たちが聖別し、資格づけて祭司の体系とならせます。

出28:4 彼らが作るべき衣は次のとおりである。すなわち、胸当てとエポデと上服と市松模様の下服、巻き頭と飾り帯である。彼らは、あなたの兄弟アロンとその子たちのためにこの聖なる衣を作り、彼を私に祭司として仕えさせなければならない。』

J) 罪のためのささげ物の雄牛が表徴するのは、より強くより豊富なキリストが、私たちの罪のためのささげ物として、肉、古い人、内住する罪、サタン、この世、この世の支配者を対処し、私たちに新約の祭司職を得させるということです。このことが私たちに思い起こさせるのは、私たちが自分自身の中では前述したすべての消極的な事物の構成であるということ、私たちの祭司職のために、キリストを私たちの罪のためのささげ物として日ごとにささげる必要があるということです：

レビ8:14 彼は罪のためのささげ物の雄牛を引いてきた。そしてアロンとその子たちは、その罪のためのささげ物の雄牛の頭の上に手を置いた。

15 モーセはそれをほふって、その血を取り、それを指で祭壇の角の上と側面に付けて、祭壇をきよめ、血の残りを祭壇の基に注ぎ出して、それを聖別し、そのために罪を覆った。

①祭司は罪のためのささげ物を、聖なる所の場所で食べるべきでした。それは、彼らが「集団の罪科を負い、彼らのためにエホバの御前で罪を覆う」ためでした。

レビ10:17 なぜあなたがたは、罪のためのささげ物を聖なる所の場所で食べなかったのか？ それは最も聖いものであり、エホバはそれをあなたがたに与えて、あなたがたが集団の罪科を負い、彼らのためにエホバの御前で罪を覆うようにされたからである。

②祭司が罪のためのささげ物にあずかって、民の罪科を負うことが表徴するのは、私たち、新約の祭司が、信者たちの罪のためのささげ物としてのキリストにあずかるということです。その意味は、キリストの命、すなわち、他の人の罪を負う命にあずかって、その命を私たちの命の供給とし、私たちが神の民の問題を負うことができるようになるということです。

③召会生活の中で、キリストを私たちの罪のためのささげ物として豊かに享受することは、私たちが信者たちに、罪を対処する命としてのキリストを供給することができるようにし、彼らが自分の罪を対処して、神との間の中断した交わりを回復することができるようにします。

④私たちは罪を対処する命としてのキリストを享受しているとき、神の民の罪科を負う度量を持たなければなりません。私たちはキリストを、罪の中にいる愛する人たちに供給することを学ばなければなりません：

a. 罪を対処する命としてのキリストを人に供給することは、彼の所に行って彼の落ち度を指摘し、彼を罪定めすることではありません。これは損害を引き起こすだけです。

b. 通常、罪を犯す人の心はかたくなです。私たちはキリストを彼に供給しようとするなら、主に信頼して、その霊によって恵みを持ち、彼のかたくなな心を柔らかくし、温めるようにしなければなりません。

c. そのとき命としてのこのキリストが、実際的に、真実に、豊かに彼に供給され、この命、すなわちその霊は、彼の内側で働きます。そして彼は、私たちを通して彼の中へと供給されたその霊、すなわちキリストの命によっていやされます。

d. これが、レビ記によれば、神の民の罪科を負うことが意味することです。これは聖徒たちの間の罪を除き去る道であり、彼らが最終的に回復されるようにします。』(4,5日目)

K) 全焼のささげ物の雄羊は、私たちの全焼のささげ物としての強いキリストを表徴し、私たちに新約の祭司職を得させます。このささげ物は、私たちが仕える者として神のために絶対的でなければならないのに、そうではないことを、私たちに思い起こさせます。ですから、私たちはキリストを私たちの日ごとの全焼のささげ物とする必要があります。それはこの時代の暗い夜を通して朝まで、すなわち主が戻って来るまでです。

レビ8:18…アロンとその子たちは[全焼のささげ物の]雄羊の頭の上に手を置いた。

6:9…全焼のささげ物は祭壇の火床の上に、夜通し朝までであるようにし、祭壇の火はそこに燃え続けさせなければならない。

L) 任職の雄羊は、私たちの任職のための強いキリストを表徴し、私たちに祭司職を得させます：

①任職の雄羊の血は、アロンと彼の子たちの右の耳たぶ、右手の親指、右足の親指に付けられました。これが表徴するのは、キリストの贖う血が私たちの聞くための耳、働くための手、歩くための足を清めるということです。

②私たちは神に仕えるとき、どのようにして神の言葉を聞き、彼が要求することを行ない、彼の道にしたがって歩くかを学ばなければなりません。レビ記第14章14節で、同じ手続きがらい病の人の清めに用いられました。これは神の目に、祭司となるように任命されている私たち罪人が汚れており、らい病の人のようであることを示します。

③私たちの聞くことが最初に述べられているのは、聞くことが私たちの働くことと行動することに影響を与えるからです。イザヤ書第50章4節と5節が示しているように、神のしもべは聞く耳を持たなければなりません。自分の主人の言葉に聞き従わないしもべは、彼のみこころ、心、願いにしたがって彼に仕えることはできません。

M) アロンと彼の子たちを任職する過程は、彼らの罪を覆うために七日間、繰り返されました。これが表徴するのは、私たちが新約の祭司としての任職と任命に関するすべての事を、覚えておく必要があるということです。祭司の任職と任命の厳粛さは35節で示されており、私たちが軽率に新約の祭司職の中へと、キリストの享受の中へと入るべきではないと警告します。

I コリント11:29 なぜなら、[パンを]食べ[杯から]飲む者が、その体をわきまえないのであれば、自分自身に対する裁きを、食べ飲みすることになるからです。』

## 経験①: 正式に任職された新約の福音の祭司

レビ8:4…集団は集会の天幕の入り口に集められた。  
6 モーセは、アロンとその子たちを近くに連れて来て、彼らを水で洗った。

集会の天幕の入り口でのアロンと彼の子たちの任職が表徴するのは、祭司職への私たちの任職が、神の御前だけでなく、また召会のためでもあるということです。

Ⅰコリント6:11 あなたがたのうちのある者は、このようでした。しかし、あなたがたは主イエス・キリストの御名の中で、また私たちの神の霊の中で、洗われ、聖別され、義とされています。

モーセがアロンと彼の子たちを水で洗ったことが表徴するのは、私たちが祭司職への任職のために、その霊によって洗われる必要があるということです。

モーセが幕屋、祭壇、洗盤、そしてそのすべての調度品に油を塗って、それらを聖別したことが表徴するのは、キリストと召会(幕屋)、十字架(祭壇)、その霊の洗い(洗盤)が、新約の祭司職と関係があり、祭司を聖別するためであるということです。

神が私たちが祭司として定めたのは聖別の事柄、聖とされる事柄、すなわち、神へと分離され、聖なる方である神で浸透される事柄です。

レビ8:10 モーセは塗り油を取り、幕屋とその中にあるすべての物に油を塗って、それらを聖別した。

11 そして、彼はそれを祭壇の上に七たび振りかけ、祭壇とそのすべての器、洗盤とその台に油を塗って、それらを聖別した。12 彼はその塗り油をアロンの頭に注ぎ、彼に油を塗って彼を聖別した。

油塗りは、キリストの人性、人の生活、死、復活、昇天と複合された三一の神を祭司に、また召会生活にもたらします。これは、祭司の体系を油塗ることが、神と私たちを一にすることを強く示しています。なぜなら油塗りは、何であれ神であること、神が行なっていること、神が行なおうとしていることが、私たちのものであることを表徴するからです。

### 在職青年編

あなたは今勤めている会社の面接に合格し、オファー・レターをいただき正式に会社の正社員となりました。このような任職が、あなたが主イエスを信じたときにも起こり、あなたは正式に新約の福音の祭司となりました。あなたは祭司として神と召会のために仕える者となりました。あなたがどのような職業に就いていても、自分が新約の福音の祭司であり、神に仕え召会を建造するために、六種類の新人と接触し、彼らに神の言葉を供給すべきです。

新約の福音の祭司はまず聖霊で洗われなければなりません。これは再生の洗いです。あなたは祭司として毎日聖霊によって洗われるべきです。これは実際的にはあなたが聖書を読んでいるとき、霊を活用して祈っているとき、霊にしたがって歩み仕事をしているときに起こります。この洗いはあなたを神へと聖別し、造り変えます。

聖霊の洗いの後、複合の霊の油塗りが来ます。あなたが正式に任職した祭司であることを考慮するとき、あなたは必ず毎朝復興の生活を実行しなければならぬことに気付くでしょう。聖霊の洗いも、複合の

霊の油塗りも、朝毎の復興の祈り読みのときに起こります。もしあなたが御言葉を祈り読みせず、祈らずに会社に行くなら、洗いも油塗りもないので、祭司の実際がなく、あなたは未信者の同僚と同じ単なる会社員になってしまいます。しかし毎朝復興を実行し、洗われ油塗られて会社に行くなら、あなたは祭司として会社に行っているのです。キリストを表現し、キリストを会社の業務の中で経験するので、あなたはどの会社に行っても成功するでしょう。

毎朝復興し、会社に行った後も、あなたはいつも自分が正式に任職を受けた祭司であることを忘れてはいけません。多くの人のように、あなたは上司に胡麻を擦るために頻りに飲み会に行ったりしてはいけません。このように頻りに飲み会に参加している人は、55歳から60歳くらいになると、大きな病気にかかったり、体力が急激に衰えたりして、気力が衰えて、仕事のパフォーマンスが急激に下がることが最近指摘されています。あなたは上司に上辺だけで仕えるのではなく、業務の実績を上げることで仕えるべきです。

## 経験②: 主に仕える者は、主から正しく聞くことを学び、 霊の中でいつも燃えていなければならない

レビ8:23 モーセは雄羊をほふり、その血から取って、アロンの右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に付けた。

任職の雄羊の血は、アロンと彼の子たちの右の耳たぶ、右手の親指、右足の親指に付けられました。これが表徴するのは、キリストの贖う血が私たちの聞くための耳、働くための手、歩くための足を清めるということです。私たちは神に仕えるとき、どのようにして神の言葉を聞き、彼が要求することを行ない、彼の道にしたがって歩くかを学ばなければなりません。レビ記第14章14節で、同じ手続きがらい病の人の清めに用いられました。これは神の目に、祭司となるように任命されている私たち罪人が汚れており、らい病の人のようであることを示します。

私たちの聞くことが最初に述べられているのは、聞くことが私たちの働くことと行動することに影響を与えるからです。キリストの血は、神の言葉、神の語りかけを聞くために私たちの耳を対処します。

イザヤ50:4 主エホバは私に、教えを受けた者の舌を与えて、疲れた者を言葉をもって、いかに支えるかを知らせられる。彼は朝ごとに私を呼び覚まし、私の耳を呼び覚まして、教えを受けた者のように聞かせられる。5 主エホバは私の耳を開かれた。私は逆らわず、退かなかった。

イザヤ書第50章4節と5節が示しているように、しもべは聞く耳を持たなければなりません。自分の主人の言葉に聞き従わないしもべは、彼のみこころ、心、願いにしたがって彼に仕えることはできません。神に祭司として仕えるために、私たちの聞くこと(耳)、働くこと(手)、歩くこと(足)は、キリストの贖う血によって清められ、聖別されなければなりません。私たちは神に仕えることで、どのように神の言葉に聞き従い、彼が要求しておられることを行ない、彼の方法にしたがって歩くかを学ばなければなりません。

レビ6:9 …全焼のささげ物は祭壇の火床の上に、夜通し朝までであるようにし、祭壇の火はそこに燃え続けさせなければならない。

FT「祭壇の火はそこに燃え続けさせなければならない」：祭壇の上で火を燃え続けさせることは、宇宙における聖なる火としての神が、食物として彼にささげられるものを受ける（燃やす）用意が常にあることを表徴し、また神にささげられるものを受ける彼の願いが、決してやまないことを表徴します。

神に仕える願いを持っている人たちが知らなければならないことは、神が焼き尽くす火であって、燃やし活力を与えるということです。この火は、私たちの内側の活力、推進力、衝撃力となって、私たちの奉仕の真の原動力となるべきです。

### 中高生編

任職された祭司として、あなたの右の耳たぶは、血で清められるべきです。これは神に仕えるときに、神の言葉をよく聞く必要があることを示します。人が他人から話を聞くとき、自分の観念や好みを持って聞くので、正しく聞くことが困難です。先生やテストの問題が何をあなたに聞いているのか、真っすぐにそれを受け入れるために、あなたはオープン・マインドが必要であり、自分の観念や好みを脇にやる必要があります。

オープン・マインドで聞くことをあなたは聖書を読むときやライフ・スタディを読むときに訓練してください。これはあなたがオープン・マインドを訓練する最上のときです。聖書は神のエコノミーの書であり、あなたの内側には個人主義、罪、汚れ、金銭欲、高ぶりなどの消極的なものがあります。あなたは聖書に来るとき、これら消極的なものの影響を受けた観念や好みを脇にやり、主に開いて聖書を読み、その中の事実を読み出す必要があります。聖書の中の事実を読み出すことができれば、あなたはその内容に驚嘆し、もう一度読み直し、祈るでしょう。そのときその霊、命を与える霊は、あなたを豊かに油塗り、あなたの観念を取り除き、知恵と啓示の霊を与えてくださるでしょう。神に仕える人の最初の要求は、神の言葉を正しく聞くことを訓練することです。

聖書の啓示によると、祭壇の火は燃え続けていなければいけません。またローマ12章11節は、「熱心で怠けることなく、霊の中で燃え、主に仕えなさい」と言い、Ⅱテモテ1章6～7節は、「6 こういうわけで、私があなたに思い起こさせたいのは、私の按手を通して与えられているあなたの内にある神の賜物を、再び燃え立たせることです。7 というのは、神が私たちに賜わったのは、臆する霊ではなく、力と、愛と、冷静な思いとの霊であるからです」と言い、啓示録4章5節は、「御座からは、いはずまと声と雷鳴とが発している。そして七つの火のともし火が、御座の前で燃えていた。この七つの火のともし火は、神の七つの霊である」と言います。

この火は、私たちの内側の活力、推進力、衝撃力となって、私たちの奉仕や、主の証しのための学校生活の真の原動力となるべきです。こういふわけであなたは毎朝復興を一年に365回、一週間に7回実

行し、霊を燃やすことで毎日を開始し、一日中霊の中で燃え、寝ているときも霊を消してはいけません。そうすればあなたは悪い夢を見たり、不眠から救われるでしょう。霊の中で燃え続けることで、あなたは主に仕えること、主の証しのために勉学において成長することが出来ます。

あなたが失敗し、罪を犯したとき、できるだけ早く自分の罪を告白し、主と召会生活の正常な交わりを回復してください。あなたはこのように祈ってください、「主イエスよ、私は罪を犯し、心が暗く、固くなっています。自分の罪、欠点、弱さ、高ぶり、反逆によるら病の罪を告白します。私は新約の福音の祭司に正式に任職されました。私は霊に戻ります。私の霊を七倍に強化された霊で燃やしてください。霊の中で燃え、主に仕える生活を回復してください。私を前進させてください」。

そして自分を再び主にささげてください。全焼のささげ物はあなたの献身をも示しているのです。あなたは毎朝、毎晩、献身を更新すべきです。主は必ずあなたの献身を受け入れてくださいます。

### 補充本102(英1122) 霊と命—七つの霊

- 1 時だいは変わり、 ななつのれいは、  
諸召かいのため、 つかわされた霊。  
(復) ななばいの霊よ、 みわざをなせや。  
わがうちさぐり、 われを燃やして、  
もちいませ、 しょうかい建造に。
- 2 なな倍のれいは、 しょう会を生かす。  
せい徒は転機し、 しょう会は燃える。
- 3 しょう会を供給し、 そなえるために、  
いまやかみの霊、 なな倍に強化す。
- 4 その霊、 ななつの 燃えるともし火。  
おしえではなく、 われ、 もやすため。
- 5 そのれい—さぐり、 刺しとおす目は、  
しょう会をきよめ、 われらばく露す。
- 6 その霊、 ゆたかな いのちもたらす。  
地ほう召かいは、 たのしみ経験す。

### 補充本305(英1159)

#### イエスを愛し慕う—イエスを愛する

- 1 主よ、うるわしさのゆえ、 わがこころをひらく。  
いま宗教より解かれて、 ただながうちに住む。  
主の栄光を見上げつつ、 かがやきに満たされ、  
わがうちに浸透ませ、 なれとわが霊はいち。
- 2 主よ、すみわたるそらに、 ひとの子、御座に見る。  
ほのおもて焼き尽くせ、 主のみ、かがやくまで。  
なれの栄こう見るとき、 自己愛、恥じて失せぬ。  
なが名のあまさ、知って、 あいと賛美ささげる。
- 3 主よ、ナルドのこう油を、 よろこびもてそそぐ。  
ながこうべにそそぎ出し、 主よ、われをささげる。  
ながため無駄づかいし、 ふかきあいこ満ちる。  
あたひ、たかきあぶらを、 たくわえ、そそぎたし。
- 4 主よ、香のやまで、かおを 合わせてまみえたし。  
わがいずみ、飲みたまえ、 ながむねにいこうまで。  
なが愛するはなよめは、 主よ、なれをあがめる。  
主よ、いそぎ来たりませ、 わが愛はなれを待つ。